

鹿児島の植物41

宝島のお宝な植物！？

植物担当 大屋 哲

宝島は、トカラ列島の南部にあり、島の基盤をなす火山岩類とその周りに発達した石灰岩からなる島です。他の島と同じように、宝島でも北限とする植物と南限とする植物が生えています。3月に調査する機会があり、その際見られた植物を紹介します。

【宝島を南限とする植物】

カタスゲ カヤツリグサ科 果期4月頃

海岸近くの明るい林縁などに生えるスゲの仲間です。長くはう茎を出して広がります。宝島では、周回する道路沿いに生えていました。



カタスゲ

ナンゴクウラシマソウ サトイモ科

花期4月頃

明るい林縁や林内に生えるテンナンショウの仲間です。これらは仏炎苞ぶつえんほうと呼ばれる花をもつことや一つの葉が複数の小さな葉（小葉）にわかれ、鳥足状につくことなどが特徴です。宝島では、女神山の林内や林縁、イマキラ山に登る道路沿いなどに生えていました。名前は、仏炎苞から雄花または雌花につく付属体が出ており、それを浦島太郎の釣り竿になぞらえてつけられました。



ナンゴクウラシマソウ

ケウバメガシ ブナ科 花期5月頃

海岸近くの岩場などに生え、高さは普通3～5mぐらいです。備長炭の材料となるウバメガシよりも葉の裏側の毛が密に生え、成長してからも毛が残るのが特



ケウバメガシの群落

徴です。宝島では、西部の女神山の山頂付近に生え、群落を作っています。

【宝島を北限とする種】

サコスゲ カヤツリグサ科 果期2月頃

宝島を北限とするスゲの仲間です。花は、先につく頂小穂は雄性で、横に付く側小穂は雄雌性で、雄性の部分が長いのが特徴です。海岸近くの岩場や砂地に生えます。宝島では、女神山や荒木崎の岩場に生えていました。



サコスゲ

ハウチワノキ ムクロジ科 花期8月頃

宝島と奄美諸島に固有の、海岸の砂浜に生える低木です。宝島では、東部の海岸近くの砂地に生えていました。

翼のある果実をうちわに見たててこの名前がつきました。



ハウチワノキ

イワキ モクセイ科 花期は不明

ネズミモチに似ていますが、葉の先がとがらず、丸っぽくなり、葉も厚くなるのが特徴です。道路沿いの明るい林などに生えます。宝島では、イマキラ山に向かう道路や周回する道路沿いに生えていました。



イワキ

シロバナミヤコグサ マメ科 花期3月頃

海岸の砂地などに茎を広げて生えます。ミヤコグサの花が黄色であるのに対して、この種は白い花を咲かせます。



シロバナミヤコグサ